

◇令和4年度研究主題について◇

現在の学習指導要領では、各教科において固有の「見方・考え方」を働かせ、問題を追究することで、「資質・能力」を身につけることが目標となっている。従来の、「科学的な見方・考え方を養う」という目標から、「理科の見方・考え方を働かせ、自然の事象について科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する」という目標へと変わった。「理科の見方・考え方」や「資質・能力」について学習指導要領解説小学校理科に記載はあるものの、各単元において、単元計画の中の1時間において具体的にどのような教材を用いて、どのような発問をすれば、理科の見方・考え方が効果的に働かせることができるのかについては実践事例が十分ではない。また、どのように児童を見取れば「理科の見方・考え方が働いている」「資質・能力が身に付いている」と評価できるかについても、実践事例が十分でないため明らかにはなっていない。昨年度に続き、研究主題を「児童に理科の見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付けさせる理科授業デザイン」とし、具体的な授業実践に即して学習指導要領の具現化と実践の蓄積を図っていく。

1 理科の見方・考え方を発揮させることについて

理科の見方は、扱う領域ごとに大きく4つに分けられている。エネルギー領域では、【量的・関係的な見方】、粒子領域では、【質的・実体的な見方】、生物領域では、【共通性・多様な見方】、地球領域では、【時間的・空間的な見方】である。考え方は、問題を見出すための【比較の考え方】、予想や仮説を立てるための【関係付けの考え方】、方法を考案するための【条件制御の考え方】、妥当な考えをつくり出すための【多面的な考え方】がある。理科の見方・考え方を働かせ、児童の確かな資質・能力を身に付けられるような、授業デザインを構築できるよう研究を進めている。

2 資質・能力を身に付けさせるための学習評価を適切に行うことについて

資質・能力の評価は、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3観点から成る。資質・能力に加え、理科の見方・考え方が働いているかどうかについては、教師が適切に見取る必要がある。各分科会では、授業の中で、児童が問題に対してどのように考え、どのように表現しているかを適切に評価するような計画を考え、提案していく。

3 授業をデザインするという事について

授業は、目標・児童の実態、教材、教授方法(手立て、指導技術)、カリキュラムや指導計画(全体と本時)、学習環境などが複雑に絡み合い、その辺りを考慮して取り組む必要がある。授業を行う際の、一連の教師の営みの中で、より確かな資質・能力が育成されるような授業をデザインしていき、事前研を含め、本時だけでなく単元全体の授業をデザインし、授業力の向上を図っていく。

◇令和4年度 主な研究計画(予定)◇

日程	内容	会場
4月14日(水)	全体会 組織編制づくり	南六郷小学校
5月18日(水)	区教研 一斉部会	新宿小学校
6月22日(水)	研究授業① 文京学院大学 特任教授 講師 森田 和良先生	池上第二小学校 授業 松本 恭平
7月27日(水)	夏季教員研修 ~ICTの活用~	南六郷小学校
11月16日(水)	研究授業② 講師 森田 和良先生	洗足池小学校 授業者 原口 慧史
2月 1日(水)	研究授業③ 講師 森田 和良先生	萩中小学校 授業者 二見 友海